

# 中国語の状語および補語となる“全”の用法について —「量」と「質」の概念との関連から—

許 賢科

DOI: 10.18999/stul.34.81

## 1. はじめに

現代中国語の“全”は、次の例(1)、(2)に見られるように状語および結果補語として用いられた場合、特定の体詞性成分に対して「すべて」の意味を付与する、いわゆる全称量化(universal quantification)の機能を果たすものである(李思旭 2010:17-18 参照)。<sup>1</sup>

(1)a. 他的小钱全买了老舍的小说。【状語】

[彼のお小遣いはすべて老舍の小説を買うのに使った。]

b. 他用小钱买全了老舍的小说。【結果補語】

[彼はお小遣いで老舍の小説をすべて買い揃えた。]

“全”が状語となる例(1a)では、「すべて」の意味は“全”の前に置かれる“他的小钱”を受けているものであるのに対し、結果補語として用いられる例(1b)では“全”の後方にある“老舍的小说”が全称量化の対象となる。また、目的語を文頭に移動させ主題化した次の例(2)については、状語および結果補語の“全”がともに前方に置かれた“老舍的小说”を指し示すものの、ほぼ同義となる場合もあれば、それぞれ異なる状況を表すのに用いられる場合もある。

(2)a. 老舍的小说，他全买了。

---

<sup>1</sup> 結果補語として用いられる“全”は一般に形容詞とされている。これに対し、状語として用いられる“全”の品詞については従来より研究者によって差が見られる。賀阳 1996:15、《现代汉语八百词(增订本)》(457頁)、《现代汉语词典(第7版)》(1082頁)などでは副詞とされる一方で、朱德熙 1980:24、郭文国 2002:34、李泉 2014:246 などでは形容詞とされている。副詞と見なす主な根拠は、単独で述語となる場合には“完备; 齐全”(《现汉》)の意味を表す“全”が、状語となると“完全; 都”(同上)の意味を表すようになる、という意味の相違に基づくものである。本稿は、状語および結果補語となった“全”がともに「量化」の機能を持つ点に着目して分析を行うものであり、品詞の判別は問題としない。

[老舎の小説は彼がすべて買った。]

b. 老舎的小説，他买全了。

[老舎の小説は彼が買い揃えた。]

例(2a)と(2b)はともに彼が老舎が書いた小説を一通り買い揃えたという意味を表せるが、(2a)の例はさらに「小説自体が結果的に揃っているか否かと関係なく、単にその書店に置いてある老舎が書いた小説をすべて買った」といった意味も表せる。

さらには、上述の場合とは異なり、“全”を状語として使えず、結果補語のみが使用できるケースも見られる。

(3) 晚到了半个小时，一直想看的电影没有看全。(→\*全看)

[三十分遅れてきて、ずっと見たかった映画を全部見ることはできなかった。]

本稿では、例(2)のように同一の成分を指し示す際に、状語あるいは結果補語を用いて表現する動機づけを追究するとともに、状語あるいは結果補語の一方のみの使用しか認められない原因を考察し、“全”の使用に内在する条件を明らかにすることを試みる。

## 2. “全”の意味指向

本節では、“全”が意味的に文中のどの成分と最も直接的な関連を持つのかという意味指向<sup>2</sup>(semantic orientation)の観点から検討を加えた上で、“全”が状語および結果補語となった場合における使い分けについて考える。

状語として用いられる“全”について、《現代汉语八百词(増訂本)》には次のような記述が見られる。

表示所指范围内无例外；都。概括的对象通常放在‘全’之前（作主语或用‘把’字提前）。常和‘都’连用，说成‘全都’。（《现代汉语八百词(増訂本)》1999:457）  
[指定の範囲内では例外がないことを表す。“都”(の意味)。概括する対象は通常‘全’の前に置かれる(主語となるあるいは‘把’を用いて前置させる)。よく‘都’と連用して、‘全都’の形で使われる。]

<sup>2</sup> ここでの意味指向の定義は次に示す陸俭明 1997 に従うものである。

“所谓语义指向就是指句中某一成分在语义上跟哪个成分直接相关。”(陆俭明 1997:35)

この記述から、状語“全”の意味指向を考えるに当たって有益だと思われる点が2つ見出せる。1つは、“全”と“都”の共通性について言及してあることである。<sup>3</sup>この点において、“全”も“都”と同様に、多種多様な対象(target)に対して量化の機能を果たすことが可能であると言える。もう1つは、状語“全”は通常その前に置かれたものの状態を指し示すことになるという前方指示(“前指”)の性格を有する点である。<sup>4</sup>この2点において、“全”の結果補語としての用法と比べると差が生じることになる。例えば、以下の“全买”の例に示すように、状語“全”が指し示す成分の意味役割(thematic role)は例(4)のような「受け手」(“受事”)だけではなく、「買う」という行為に関わる要素としての「お金」(例(5))、「受益者」(例(6))、「仕手」(例(7))、「場所」(例(8))なども量化の対象となりうる。また、これらの要素を表す成分はすべて“全”の前方に現れている。

(4) “如果两年后保证开花、结果，我把这些树苗全买下。”

(市场报 1994 年 CCL)【受け手】

[もし二年後に花が咲き、実を結ぶことを保証してもらえば、私はこれらの苗木をすべて買います。]

(5) 挣来的钱全买了麻醉品，没钱保养自己，没钱上美容院，也没钱住高级住宅。

(读者(合订本) CCL)【お金】

[稼いだお金はすべて麻薬を買うのに使ったから、自分自身を養生するお金も、美容院に行くお金も、高級住宅に住むお金もない。]

(6) ……北方来的顾客一买就是好几件，城里的主妇常常给一家老少全买上了……

(人民日报 1994 年 CCL)【受益者】

[(前略) 北方からきた顧客は買いたすと何着も買うことになる。都会から来た主婦はよく一家の年寄りと若者のみんなに買ってあげて…]

(7) 他们没有例外的全买一件东西还三次价，走开又回来摸索四五次。

(〈趵突泉的欣赏〉老舍 CCL)【仕手】

[彼らはみな例外なくものを一つ買うたびに三回値切り、立ち去るとまた戻って四、五回手で触った。]

(8) 两个青年到皮开得栗的戏馆子买票，买了好几家，全买不到。

<sup>3</sup> “都”と“全”の相違については馬真 2004:106-108 を参照。

<sup>4</sup> 馬真 1985 では“都/全”の総括する対象が後置する例も挙げられているものの、それらは主に話し言葉における特定のパターンに用いられるものである。本稿ではこのケースについては考察の対象外とする。

(《二马》老舍 CCL)【場所】

[二人の青年はピカデリーの劇場でチケットを買いたいと思って、何軒も行ったが、どこに行っても買えない。]

一方、“买全”が用いられる用例では、“全”は一般には受け手の状態しか指し示さない。その際、受け手を表す成分は“全”の前方および後方のいずれにも現れうる。

(9)很多年货还没买全的人,今天也都到八廓街来买年货。

(新华社 2003 年 3 月份新闻报道 CCL)【受け手】【前方指示】

[正月用品をまだ買い揃えていない多くの方は、今日も八廓街に正月用品を買いに来ている。]

(10)一对刚刚有了小孩的青年夫妇,一口气在“十点利”商场买全了孩子 1 至 5 岁的全部服装。

(1994 年报刊精选 CCL)【受け手】【後方指示】

[子供が生まれたばかりのある一組の青年夫婦は、「十点利」デパートで子供の 1～5 歳までの服を一気に全部買い揃えた。]

すなわち、意味指向の観点からは、状語の“全”は統語的に前方に現れる体詞性成分であれば、意味的にあまり制約を受けずに関連を持つことが可能であると言える。これに対し、結果補語の“全”は指し示される成分との統語的關係はより緩やかであるものの、当該成分の意味役割に制約が見られる。次にこうした意味指向上の相違についての観察を生かし、指し示す成分の意味役割を同じくする場合における、状語と結果補語としての“全”が用いられる動機づけについて考察する。

### 3. 「量」と「質」の概念との関連

状語の“全”とともに用いられる動詞には様々なものが見られるのに対し、“全”が結果補語となる“V 全”の組み合わせではそれと共起する動詞は比較的、限定されたものとなる。《汉语形容词用法词典》(176 頁)では“买全、准备全、看全、拿全”が挙げられており、刘振平 2015:228 では結果補語“全”と結びつく動詞として“来、到、出、占、预备”が挙げられている。北京大学中国语言学研究中心语料库(以下、CCL コーパスと記す)より収集した用例から見ると、その中では“看全”、“买全”の数がとりわけ多かった。一方で、“看”は状語“全”の被修飾語となる際に、“能不能成功全看你了。”[成功するか否かは君次第だ。]のような

認識に関わる意味で多く用いられるのに対し、“看全”の“看”は通常は動作義しか表さない。こうした理由から、本節では状語と結果補語となる“全”の相違を分析するにあたり、引き続き“全买”、“买全”の例を中心に取り上げる。

### 3.1 「量的指向」と「質的指向」

冒頭では(2a)“老舍的小说,他全买了。”の例について、「行為」(すべて買った)および「結果」(買い揃えた)の二つの側面から捉えることが可能であることを述べたが、受け手となる本の書名を示してある次の例(11)における“全买”は、「すべて買った」の意味しか表さず、“买全”とは置き換えられない(“\*把《万家诉讼》买全”は不成立)。

(11)他走回驻地前已把小说读完,忽而折身跑回书摊,一揽子把所有《万家诉讼》全买下,返回住所分给摄制组的“杠头”们。(读者(合订本) CCL)

[彼は駐屯地に戻る前にすでに小説を読み終わっていた。突然体の向きを変えて露店の本屋に引き返し、一括で『万家訴訟』をすべて買った。住まいに戻ったらそれを撮影班の「杠頭」(「理屈をこねて言い争う人」の意味:訳者注)たちに分けた。]

ここでは、《万家诉讼》が単行本であるが故に、「買い揃える」の意味がなくなり、状語“全”が先行文脈の“书摊”に存在する《万家诉讼》の数量を指し示すことになる。一方、結果補語としての“全”が用いられるのは、次の例(12)に見られる《康熙大帝》のようなシリーズやセットになったものが受け手となる場合、あるいは例(13)で示されるように、受け手が単行本ではあるものの、続き物として雑誌などに連載する各部分との対比により、その本を内部が分解できるものとして認識可能な場合である。

(12)据说,曾有一位台湾的女大学生在来信中说,为了买全二月河的《康熙大帝》,她利用空闲时间打工挣钱。(新华社 2002 年 1 月份新闻报道 CCL)

[聞くところによると、かつてある台湾の女子大学生は手紙の中で、二月河の『康熙大帝』を買い揃えるために彼女は空き時間を利用してアルバイトでお金を稼いでいる、と言ったそうだ。]

(13)偶然买到零本的《宇宙风》,老舍先生的名著《骆驼祥子》、《牛天赐传》,就是在这个杂志上连载的。我看到零本中的连载,极感兴趣,但不全、不连贯,读后殊不满足……我又从宣武门内头发胡同市立图书馆,借阅了《老张的哲学》、《二马》……以后又借阅了《猫城记》、《蛤藻集》等书,大体都看全了。(1998 年人民日报 CCL)

[偶然一冊の『宇宙風』を手に入れた。老舍先生の名著『駱駝祥子』、『牛天賜傳』はこ

の雑誌に連載しているのである。私は雑誌の中の連載を見て大変興味を持ったが、不完全で筋が通っていないので、読み終わると、全然満足できず(中略)私はまた宣武門内の頭髪胡同にある市立図書館から『老張的哲学』、『二馬』を借りた(中略)それからまた『猫城記』、『蛤藻集』などを借り、そのほとんどを読んでしまった。]

すなわち、状語および結果補語として用いられる“全”はともに全称量化の機能を果たすものとされるが、それぞれの用法における意味的な重点が異なると言える。状語として用いられた場合には量化対象の「量」(数量)に、結果補語として用いられた場合には「量」よりも量化対象の「質」(欠けるところなくすべて揃っているか否か)に着目される。状語と結果補語に見られるこういった相違は、次のような例がその傍証となる。

(14)然而，出国前夕黛二小姐好像得了购物狂癖，见什么买什么，想把这辈子穿的用的读的全买齐了……(《无处告别》陈染 CCL)

[しかしながら、出国する前夜、黛二お嬢さんは買い物中毒を起こしたように、目に入れたものを何でも買ってしまい、一生分の着るもの、使うもの、読むものをすべて買い揃えようとした…]

例(14)では、状語“全”とともに、動詞の後ろに結果補語の“全”と意味を同じくする“齐”[揃う]が用いられている。そして、音節上の重複を避けるために、例(14)の“全”を同義の“都”に置き換えれば、結果補語の“全”も用いられるようになる。

(14)'……想把这辈子穿的用的读的都买全了……

結果補語の“全”を“齐”に、状語の“全”を“都”に、という置き換えが可能な事象から、状語と結果補語の両位置に置かれる“全”における意味の分化がより明確に窺える。前者は完全性を前景化したものであり、後者は複数を総括する機能を有するものである。<sup>5</sup>

### 3.2 完成段階と継続段階

以下、状語および結果補語として用いられる“全”のそれぞれに見られる「量的指向」、「質的指向」の性格について、さらに統語的に共起する形式という側面から分析する。

上で見た“全”が結果補語として用いられる(12)“为了买全二月河的《康熙大帝》”の例について、例(11)“一揽子把所有《万家诉讼》全买下”に倣って受け手の《康熙大帝》を介詞

<sup>5</sup> この点は、単音節形容詞が状語となる際に起こりうる「意味の漂白」ということにも通じるものである。郭文国 2002:35 は“a.这里藏书全—b.这些事他全知道”のそれぞれに見られる“全”について、前者は具体的な範囲と関係があるのに対し、後者は意味が漂白化し抽象的な範囲を指し示していると述べている。

“把”を用いて前置させ、さらに後ろに方向補語“下来”<sup>6</sup>を加えると、“全买”も使えるようになる。

(12)'……为了把二月河的《康熙大帝》全买下来……

“他把房子卖了。—\*他把房子买了。”の対立に見られるように“买”は“把”構文の述語動詞としては必ずしも成立するわけではないという制約<sup>7</sup>が“下(来)”が用いられる統語的な動機づけとなると考えられる。その一方で、他の構文パターンも含めて、方向補語と共起する“全买”の用例のほとんどでは、なぜ他の補語ではなく“下(来)”が選択されることになるのかが問題となる。

(15)他一下子就把这批货全买了下来，改装成电热瓷壶。(1994 年报刊精选 CCL)

[彼は一気にこの貨物をすべて買って、電気磁器ポットに改造した。]

(16)九爷看着高兴，花十几两银子连羊带车全买下来了。(《烟壶》邓友梅 CCL)

[九爺様はそれを見てとても喜んで、十数両の銀を使って羊から車まですべて買った。]

(17)“这群马有多少匹了？”“一百匹。”“俺全买下了。这马是谁卖的？”

(《努尔哈赤》李文澄 CCL)

[「この群れの馬は何頭いるの？」「百頭。」「俺が全部買ってしまおう。誰が売り手なんだ？」]

“买下(来)”の組み合わせでは、動詞“买”が「(対象の)残存」を表すことから、後ろの“下(来)”は「動作の完成」を表すものとされる。<sup>8</sup>すなわち、“全买下(来)”が表すのは完成段階に焦点が置かれる出来事であると言える。また、数は少ないものの、方向補語“去”や結果補語“光”、“走”と結びつく用例も見られる。

(18)这些货一个老客就全买去了，价钱比昨天还高上三成多呢。

(《中国传统相声大全》CCL)

[それらの品物は一人の常連客にすべて買っていかれて、値段も昨日よりも三割あまり

<sup>6</sup> 例(12)'において、例(11)と同様に“下”を用いるとやや不自然となり、複合方向補語“下来”と置き換えることにより自然になると指摘するインフォーマントが存在する。“V下”のような“来/去”を伴わないフレーズは目的語を後ろに従えてはじめて安定化することは夙に指摘されている(杉村 2000 などを参照)。“V下”を用いた場合に見られる例(11)と例(12)'の容認度の差は、(11)では“……把小说读完，忽而折身跑回书摊，一揽子把所有《万家诉讼》全买下，返回住所……”のように一連の行為の1つとして「埋め込まれ」ているのに対し、(12)では介詞“为了”を用いて、その独立性を高めていることに起因するものと考えられる。

<sup>7</sup> 张国宪 1995:81、张伯江 2000:30 などを参照。

<sup>8</sup> 丸尾 2014:26-27 を参照。

高かったんだよ。]

(19)我恨不得把你的瓜子全买光，让你也去看电影。(〈第九个售货亭〉姜天民 CCL)

[私は君のひまわりの種をいっぺんに全部買いたくてたまらない。君にも映画を見に行かせたい。]

(20)……俩人拿月饼当棋子下棋赌输赢……约定输了的全吃光或全买走……(《郭德纲相声集》 CCL)

[(前略)二人は勝負を賭けて月餅をこまとして将棋をやり、(中略)負けた人はそれらを全部食べてしまうか持って帰ることにすると約束した…]

これらの補語はすべて「消失」を表すものであり、「買う」という動作の仕手あるいは受け手が現場から離れていくことによって、動作が完成することになるのである。

これに対し、“V 全”の場合の多くは完成するまでの段階が感じられる。

(21)像上海良友图书公司赵家璧先生主编的《中国新文学大系》十卷精装影印本，就是逛了多家书店的书库之后，“无心插柳”式的零星买全的。(1993 年人民日报 CCL)

[上海良友図書会社の趙家璧先生が主編となる『中国新文学大系』という十巻の上製影印本は、たくさんの本屋の書庫をぶらついた後、「無心挿柳」(「何気なく挿した柳の枝が陰をなす」の意味: 訳者注) 式に少しずつ買い揃えたのだ。]

(22)当你收到某套丛书的第一本时，你当然会掏钱把其它的买全。(读者(合订本) CCL)

[あるシリーズの一冊目を手に入れた時には、当然お金を払って他の本も買って揃えるであろう。]

(23)如此教了将近一月，陆无双将整部心经从头至尾的记全了，反复背诵，再无遗漏。

(《神雕侠侣》金庸 CCL)

[(楊過は)このようにほぼ一ヶ月近く教えてきた。陸無双は『心経』の全編を初めから終わりまで全部覚えた。繰り返して暗唱し、もう遺漏がない。]

例(21)と(22)では、《中国新文学大系》や“某套丛书”などの受け手となる本は買い始めから全体が揃うまでの過程は、それぞれ“逛了多家书店的书库之后”という文脈や状語の“零星”、シリーズの中の“第一本”と“其它的”の対比などにより描き出されている。そして、例(23)では“心经”という一冊の本ではあるものの、フレーズ“从头至尾”を状語として用いて“记全”という行為が実現するまでの過程が前景化されることになる。要するに、“V 全”の表す事態は往々にして漸進的(incremental)に捉えられ、継続段階が焦点化されるものであると言える。



以上、状語の“全”は完成段階、結果補語の“全”は継続段階が焦点化される事態に用いられることを明らかにした。<sup>9</sup>こうした相違が生じる背景には、「量的指向」、「質的指向」の観点から見ると、単にモノの分量を満たすのと比べて、欠けることなく完全に揃えるという行為には、それなりの時間と努力が求められるといった要因が関係している。それゆえ、“V全”の用例では助動詞“能”などのモーダルな側面を持つ形式とともに用いられ、事態実現に向けて主体の積極的に努力しようとする意欲が感じられるものが非常に多く見られることになるのである。

(24)说它单调，画片的种类很少，仅仅是那几类，收藏一段时间准定能买全了。(市场报 1994 年 CCL)

[それを単調というのは、絵入りカードの種類はとても少なく、わずかにその数種類だけで、しばらく収集したらきっと買い揃えることができる。]

(25)比如一只水杯或一支笔……用眼睛看时，穷尽一生也不可能看全它们在四维空间的外形。(《三体 III》刘慈欣 CCL) (→看不全)

[例えば一つのコップあるいは一本のペンを(中略)目で見た時、一生かけても四次元の世界におけるそれらの外見を全部見るができない。]

(26)据称为了看全艾雅斯岩以上这些色彩，她曾经在这里一住就是1个月，日出而作，日落而息。(网络语料 CCL)

[消息筋によると、以上のエアーズロックの色彩を全部見るために、彼女はかつてここに泊まるようになって瞬く間に一ヶ月が経った。日が出ると働き、日が落ちると休む。]

「可能」に関わる形式と多く共起することが“V 全”の顕著な特徴として挙げられる。尾上 1998:93 は「可能の意味」を「動作主がその行為をしようという意図を持った場合にその行為が実現するだけの許容性、萌芽がその状況の中に存在する」(傍点は引用者による)と定義しており、本稿でいう「モーダルな側面」とは、主体が意図を持って事態の実現に積極的に関わろうとすることを指す。例(24)に見られる“能”のみならず、「発話者の〈希望〉の下に、そ

<sup>9</sup> これはあくまでも実例の観察に基づき、それぞれのプロトタイプ (prototype) を探って得たものである。“量化動結式” (quantification VR) は、文脈を外した場合、往々にして解釈の仕方次第で完成段階、継続段階のどちらにも焦点を置くことが可能である。例えば、李思旭 2010:26 は“池塘里的鱼死完了”の例について、“鱼在瞬间全部死亡”[魚が瞬間的に全部死んだ]と、“一条接一条地死去”[(魚が)次々と死んでいった]との2通りの捉え方が可能だとしている。同様のことは本稿の“V 全”についても言えるものであり、上で挙げた例とは異なり、次の例では「買い揃える」までの段階性はあまり感じられない。  
……这些过去跑三五家商店也难购齐的商品，如今进一家“超市”就能买全。(1995 年人民日报 CCL) [(前略)これらの昔数軒のお店に行っても買い揃えるのが難しい商品は、現在ただ一軒の「スーパーマーケット」に入れば買い揃えることができる。]

れが残念ながら叶わない、実現できないという〈不可能〉は、可能補語“V 不[R/了]”で表すのがふさわしく……(勝川 2015:71、傍点は引用者による)と指摘されているように、例(25)も“看不全”と置き換えることができ、このことから主体の意図性を見出すことができる。

#### 4. おわりに

以上、全称量化の機能を果たすものとされる、状語および結果補語となる“全”の用法について、「量」と「質」の概念との関連という観点から考察した。状語の“全”は量化対象の「量」に、結果補語の“全”は量化対象の「質」にそれぞれ重点を置くことを明らかにした。冒頭に挙げた次の例(27a)が「小説自体が結果的に揃っているか否かと関係なく、老舎の小説をすべて買った」の意味を表せるのは、状語の“全”が「量的指向」の性格を有し、対象の「質」には特に関心を向けないからである。そして、それが例(27b)と「一通り買い揃えた」の意味を同じくする場合も存在するというのは、量的に「すべて買った」結果、質的にも「全体が揃った」と連想させたものにすぎないように思われる。

(27) a. 老舎的小说, 他全买了。(例(2a)再掲)

b. 老舎的小说, 他买全了。(例(2b)再掲)

最後に、次の例において“看全”のみが用いられる理由について考えてみる。例(28)からは「ずっと見たかった映画なのに、その全編を見られなかった」という主体の意図や残念な気持ちが読み取れる。つまり、ここでは対象の「量」ではなく「質」が前景化されているため、「質的指向」の“V 全”の形で表現するのがふさわしいと言えるのである。

(28) 晚到了半个小时, 一直想看的电影没有看全。(→\*全看)(例(3)再掲)

#### [参考文献]

##### 中国語

郭文国 2002. 〈状語位置単音形容詞的語義特点〉, 《語文知識》第 3 期, 34-36 頁。

賀陽 1996. 〈性質形容詞作狀語情況的考察〉, 《語文研究》第 1 期, 13-18 頁。

李泉 2014. 《單音形容詞原型特征模式研究》, 商務印書館。

李思旭 2010. 〈全称量化和部分量化的类型学研究〉, 《外國語》第 33 卷第 4 期, 16-31 頁。

- 刘振平 2015. 《形容词做状语和补语的认知语义研究》，商务印书馆。
- 陆俭明 1997. 〈关于语义指向分析〉，黄正德主编《中国语言学论丛》第一辑，34-47 页，北京语言文化大学出版社。
- 马真 1985. 〈关于“都/全”所总括的对象的位置〉，陆俭明·马真《现代汉语虚词散论》，98-105 页，北京大学出版社。（原载《汉语学习》1983 年第 1 期）
- 马真 2004. 《现代汉语虚词研究方法论》，商务印书馆。
- 吕叔湘主编 1999. 《现代汉语八百词（增订本）》，商务印书馆（2017. 12）。
- 张伯江 2000. 〈论“把”字句的句式语义〉，《语言研究》第 1 期，28-40 页。
- 张国宪 1995. 〈语言单位的有标记与无标记现象〉，《语言教学与研究》第 4 期，77-87 页。
- 郑怀德·孟庆海编 2003. 《汉语形容词用法词典》，商务印书馆（2016. 9）。
- 中国社会科学院语言研究所词典编辑室编 2016. 《现代汉语词典（第 7 版）》，商务印书馆（2018. 10）。
- 朱德熙 1980. 〈现代汉语形容词研究〉，《现代汉语语法研究》，3-41 页，商务印书馆（1997. 7）。（原载《语言研究》1956 年第 1 期）

## 日本語

- 尾上圭介 1998. 「文法を考える 6 出来文(2)」, 『日本語学』第 17 卷第 10 号, 90-97 頁, 明治書院。
- 勝川裕子 2015. 「中国語における〈不可能〉とモダリティ」, 『ことばの科学』第 29 号, 63-78 頁, 名古屋大学言語文化研究会。
- 杉村博文 2000. 「“走进来”について」, 『荒屋勸教授古希記念中国語論集』, 151-164 頁, 白帝社。
- 丸尾誠 2014. 「第 2 章 方向補語“下(来/去)”の派生的用法について—「量」の概念との関連から—」, 『現代中国語方向補語の研究』, 19-37 頁, 白帝社。

